

高橋 悠 氏 学位審査結果の要旨

主査：上野 博夫

副査：伊藤 誠二、権 雅憲

食道上皮幹細胞は食道重層扁平上皮組織下部、基底層近辺に存在が示唆されてきたが、現時点においてその存在も含め議論が続いている。しかしながら食道上皮組織由来の悪性腫瘍である食道がんが現在も予後不良な悪性腫瘍であることから、食道上皮組織の維持機構の解明は重要な研究テーマである。申請者は食道上皮基底層において申請者らの研究グループが作成した Smad のリンカー領域リン酸化ペプチドに対する抗体を用いて同定される細胞（pSmad2/3L-Thr 陽性細胞）について解析を加えた。pSmad2/3L-Thr 陽性細胞は基底層に存在する Ki67 陰性の細胞周期の遅い細胞であり、幹細胞マーカーと考えられている CDK4, p63, CK14 を共発現していた事から食道上皮幹細胞の一部であることが示唆された。本研究はこれまで未知な部分が多かった食道上皮組織維持機構に重要な情報を与えるとともに、今後の再生医療、分子標的療法への応用等が期待されることから、十分に学位に値すると考えられた。